

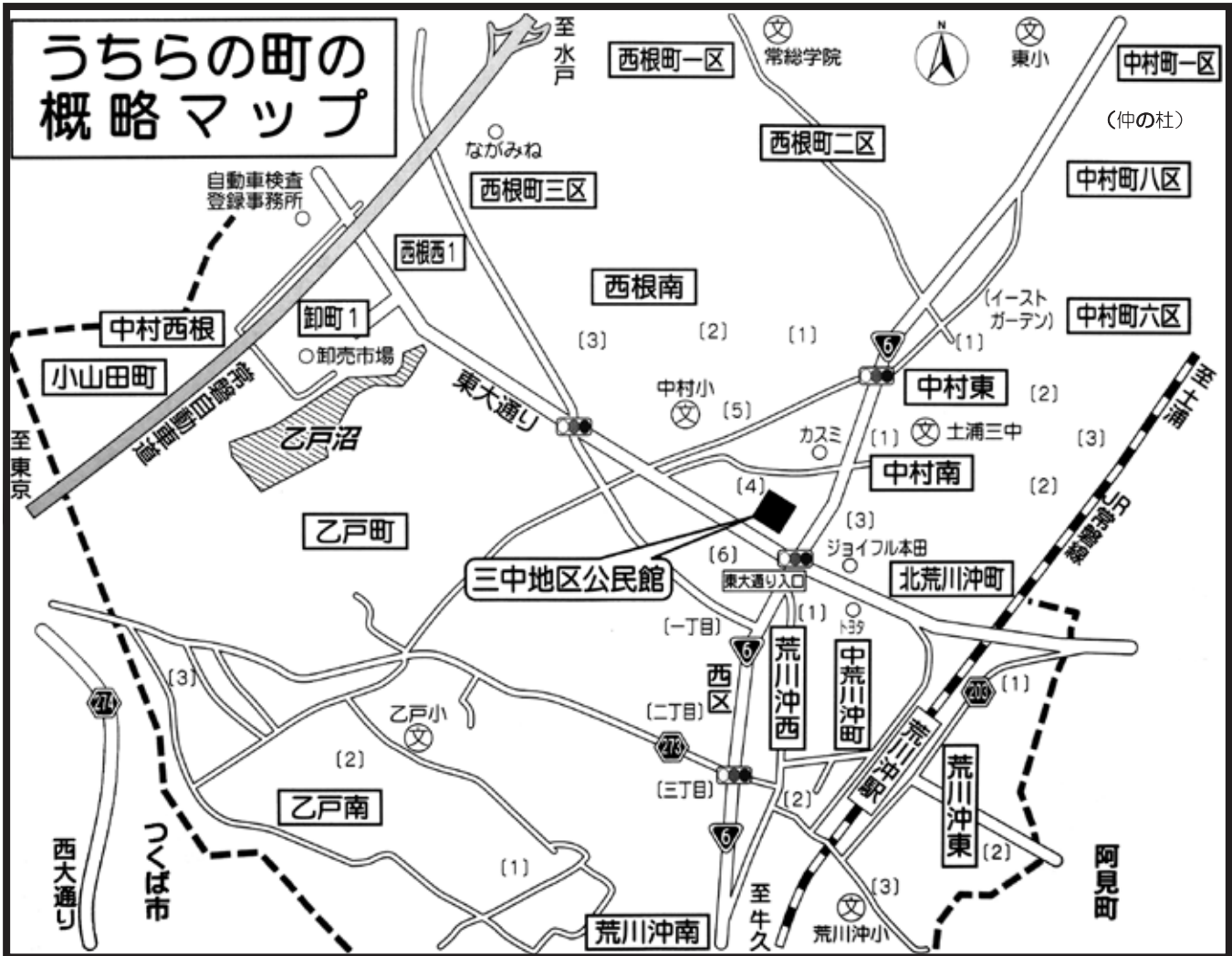


土浦市イメージキャラクターつちまる（アマビエVer.）

新型コロナウイルス禍中号

わたしたちの町の情報源 うちら

発行者 三中地区市民委員会 文化広報部 / 市民委員会事務局 TEL 843-1233 FAX 843-1294



「コロナに負けるな！」

東京オリンピック・パラリンピック2020も大きな課題を抱え延期となり、市内の主な行事はもちろんな、三密となるような人の集まりもことごとく中止せざるを得なくなり、散々な思いをされている事と感じております。

三中地区公民館だより「うちら」発行にも影響し、文化広報部員会活動も中止して新型コロナウイルス感染予防に取り組みました。完全に取やめることも残念なため、これまで10年ほどかけて紹介して参りました「うちの町紹介」記事を再編集して一気にお届けするにいたしました。

そのために過去のデータをかき集めました。残念ながら写真については、当時のネガフィルムやプリントの入手が困難なため、データで残っているものも含め足並みをそろえる関係で掲載できておりません。また、内容が現在にそぐわないものもあります。が、当時の状況が懐かしく思える事もあるかと思ひ、あえて当時のままとしております。

ただ、文中に表示した表には現在の地区長名と直近の世帯数を掲載しました。比較などとして一読いただければ幸いです。

文化広報部長 赤川 澄信

荒川沖小学校地区

【中荒川沖町】平成20年3月

皆様に広く中荒川沖町を知っていただくために現在に至るまでの歩みと発展のアウトラインを紹介させていただきます。荒川沖町五丁目（平成10年に住居表示の改定があり中荒川沖町となる）を紹介する時は「岡谷館」と「荒川沖駅」を避けて語ることはできません。

岡谷館製糸所は、明治40年に荒川沖駅に隣接する1万8000坪の敷地に製糸工場を創業、大正の最盛期には従業員約1000名を有する大工場に成長して、荒川沖は大変な活況を呈しました。勿論従業員1000名の大部分は、いわゆる織姫といわれる女工さんでした。その後昭和初期の不況に遭い規模を縮小し、旭製糸合資会社として戦争末期まで操業を継続されま

町名	地区長名	世帯数
中荒川沖町	塚原 英夫	430
北荒川沖町	平嶋 進	455
荒川沖東一丁目	豊崎 信夫	234
荒川沖東二丁目	直井 孝夫	521
荒川沖東三丁目	中島 和雄	803
荒川沖西一丁目	秋田 耕作	383
荒川沖西二丁目	鈴木 肇夫	323
荒川沖西三丁目	高野 和彦	403
荒川沖南区	飯塚 隆	372
9地区	世帯数合計	3,924

(R2.4月現在)

した。この工場跡地の広い野原を、昭和30年代後半に日立土地株式会社が開発宅地造成し、日立団地が誕生しました。世帯数も5〜7年で120世帯が町会に加入いたしました。

一方、荒川沖駅はつくば科学博の開催を機会に、在来の木造平屋建の駅舎を昭和52年4月解体、仮駅舎にて業務を継続昭和53年2月近代的な橋上駅が竣工、東口の開発を促すと同時に学園都市の玄関口として、又首都のベッタタウンとして変貌を遂げてまいりました。橋上駅の竣工と同時に西口駅前広場の開発が急ピッチで進み、駅前には有った個人商店と住民の住居は開発計画に沿い周辺の代替地に移転しました。現在駅前広場の中央には、バス停、タクシー乗場、有料駐車場があり、駅西口を出て左手にセブンイレブン、レストラン、正面7階ビルの一階に水戸信金、ケーキ屋、薬局、美容室などが出店、階上はマンシヨンの「さくらさくら」が有ります。一方右手にはツインビル、マンシヨン「ラクシア」、プラザホテル、青少年広場(児童公園)、跨線橋の脇に消防署が位置します。

さて、中荒川沖町内会は80世帯の入居者を有する「ラクシア」の中荒川沖町会に加入と併せて260世帯、人口480人の町内会です。活動並びに運営は、「安全、安心で明るく活気のある町造り」をモットーに役員10名を中心に運営しております。町会での三大イベントに位置づけしています事業は「春の花見会」「夏祭り」「秋の市民

体育祭」と決めています。イベントにはお年寄りからお子さんまで幅広い参加を得て「町会内のコミュニケーションを図る」を最大の目的に行っております。

地区長 樟山盛男

【北荒川沖町】平成19年3月

北荒川沖地区は、文字どおり荒川沖の北に位置し、地区内には「ジョイフル本田ホームセンター」「介護老人福祉施設「もりの家」等があります。

高齢者の方には、昔の田村住宅のあたりと云えば、北荒川沖の大体の所在場所がお解りいただけるのではないかと思います。当地区の面積は20ヘクタール弱ですが、小川も雑木林も、田畑も無い、ないないづくしの静かな住宅街で、現在約400世帯、1124人(平成18年12月現在)が、ひっそりと肩を寄せ合って生活しております。

現在の荒川沖町は、中地区を囲んで東西南北の五地区に別れておりますが、その昔は、東、西、南の三地区のみで北区は存在しませんでした。当時しいて北区を設けようとした場合は、さしずめ今私たちが住んでいるところあたりであったらと思うのですが、昭和15年頃までこの周辺に有った人家はわずか5軒で、クヌギ、ナラ林等に囲まれた寒村地で電気も無く、ランブ生活を余儀なくされていたことで、北区という名称をいただけるような状態ではなかったようです。

これを見かねたある資産家が、この

地に住宅街「田村住宅」を整備したおかげで徐々に人口も増え、現在の北荒川沖町が出来上がったと聞き及んでおります。しかし、完全に計画されて建設された町並みではありませんので、道幅は狭く賑やかな商店街等も存在しませんが、住民の方が住んで良かったと云っていただけのこと、自治会常任役員10名と班長、子供会、老人親睦会等が協力し合って町内の美化、防犯、道路・街灯の整備等々、より明るく住み良い町づくりを目指して試行錯誤しながら頑張っております。

地区長 郡司 充男

【荒川沖東一丁目】平成21年3月

荒川沖はかつて、現在の土浦市荒川沖地区、阿見町住吉一・二丁目、うすら野一・二・三丁目が稲敷郡朝日村荒川沖と、かなり広い地域でした。昭和23年に荒川沖が東西二つに分かれ、西が土浦市(旧新治郡)に合併し土浦市荒川沖となりました。残りの朝日村荒川沖は後に阿見町に合併し、稲敷郡阿見町荒川沖として、荒川沖という地名は、数年前まで土浦市と阿見町の双方に存在しておりました。現在、私の自宅横の道路が土浦市と阿見町の境界となっております。

荒川沖東一丁目は、土浦市に合併した当時は商店が多く、活気のある賑やかな地域でしたが今はお店の数も数件となり、ほとんどがサラリーマン家庭となっております。現在は、戸数200戸余り人口500人弱の面積

の狭いごく小さな町会です。荒川沖の北東部に位置して、北側と東側の二方が阿見町と接しており、当町内だけでは解決できない事が多くあります。

そこで、よみがえれ東一丁目を目標し「明るいまち・楽しく・みんな」で運営をスローガンとして、町民の交流と後継者の育成を含めて「住みよい町会創り」を目指しております。

それには町民に出来るだけ町会の情報や伝達し、ガラス張りの町会運営が肝要と思います。町会行事の意義や目的を出来るだけ正確に理解してもらえる様に、3年前から「東一だより」というカラープリントの手作り町会報を各戸配布しております。同時に会合を密にすることも心がけ、執行部二役会（毎月2回）は基より評議員会（年7回）班長会（年4回）を開催し各役員との連絡をはかり、それぞれの自己責任のもと任務を遂行します。

主な町会行事は①初午祭 荒川沖東五町会合同行事 ②東の夏祭り ③歩け歩け大会（いづれも荒川沖東三町会合同行事）④荒川沖小五年生の田植え、稲刈り支援 ⑤市民体育祭 ⑥盆踊り大会 ⑦敬老祝賀会 ⑧防犯活動（昼間、夜間、パトロール隊、青色パトカー2台所有）⑨独自の防災訓練（班別組織による情報収集など初期対策訓練、炊き出し訓練など）⑩バーベキュー大会 ⑪グランドゴルフ大会 ⑫花いっぱい運動、花壇創り ⑬手作り町会報「東一だより」の発行等です。そして町民は町会行事への積極的参加「町民一人ひとり

が町会運営」と考えております。

このような考えのもとに体育部、子ども会、老人会とも連携を取りながら独自の活動を取り入れて地域安全、環境、青少年健全育成などを重点に町内一丸となり運営しております。

地区長 小川 久夫

【荒川沖東二丁目】平成18年10月

我が町会は常磐線荒川沖駅の西口、東口を所有し、西は荒川沖町、北は東一丁目、南に東三丁目及び東は阿見町と境界し駅に向かった東区の中心に位置しています。人口1034人、世帯数432戸と荒川沖では平均的な町会だと思っております。

主な施設等の所在を紹介しますと駅に連結して「さんぱる」荒川沖商業協同組合、「長崎屋」及び「水戸信用金庫」「茨城県信用組合」「関東つくば銀行」の各支店が営業しております。

一方町会内では荒川沖東部地区学習等共用施設（通称東区公民館）があります。この公民館は土浦市より東区五町会（東一、二、三丁目、中荒川沖、北荒川沖）へ管理を委託され実質的には東三町会で運営しております。

続いて東区唯一の神社で、毎年初午の日に、町民の五穀豊穡、家内安全、商売繁盛を祈願した祭礼が举行される尾先稻荷神社がありこの祭礼も東区五町会の管理運営で行われています。

戦前に東区の出兵兵士はこの神社において壮行会が行われ、武運長久を祈願し多くの町民に見送られ出征し

たと聞いています。

町会の諸行事運営の取り組みについては会長、副会長、会計、監査、評議員の役員15名と班を代表する班長36名が町会運営の最高議決機関として運営しています。定期総会を年1回、役員会を3、6、9、12月の年4回開催。年計画に基づいて3か月毎の事業報告、次月以降3か月間の事業計画会議を実施しています。

次に主な活動として、自主防災活動（防災訓練、講演会等）と、自主防犯パトロールを実施しています。防犯パトロールは隊員35名の編成で一班を5名編成一週間（7日交替で毎日パトロール実施しており犯罪、事故、災害等を未然防止し安全で安心な町創りを目的に活動が続けています。また、7月第3土日曜日に東区三町内の夏祭りを実施し大人、子供御輿、山車の巡行、お囃子、踊りが出、夜は駅前大通りを片側一方通行とし夜店も多数出店し盛大に行われます。

さらに、11月は東三町会合同の歩け、あるけ大会を行います。その他として老人会（第一寿会）子供会体育部の各部活動、同好会としてのカラオケ、東一丁目親睦ゴルフコンペも活発に行われています。

今後もこれら活動を通じて町会員相互の親睦を図り安心、安全な住み良い町づくりをめざして参ります。

地区長 近藤 九州男

【荒川沖東三丁目】平成21年10月

わが町は、車のエンジン音や子供たちの話し声で毎日がスタートします。荒川沖駅に接して東南に位置し、町内に荒川沖小学校があるからです。そして、町のすぐ隣はもつ阿見町です。基本的には競馬場跡地や山林などを戦後開発した住宅地で、現在の世帯数は約650。駅に近いせいかわパパート、マンションにお住まいの若い世代が多いのと、旧来の住宅の年配の方が多いことが特徴です。

町内会活動は活発に行われております。常磐線東側の、東一、二、三丁目合同の「東の夏祭り」は今年も7月に盛大に行われました。そのほか、市民体育祭への積極的な参加など各種行事を行っております。町内会活動として、力を入れているのは「防犯パトロール」です。小学校の下校時間を中心に町内のパトロールを組み編成によって行っているほか、夜間パトロールを実施しています。これは、駅や飲食店が町内にあるということも大きな理由です。パトロール隊編成にあたっては、女性の積極的参加が特徴です。サラーマンの家庭が多いため、昼間は女性の参加が欠かれません。一方夜間組みには帰宅後の男性が参加しています。また、昨年わが町内会では初めての試みでしたが、自主防災活動として防災ボランティアにおける身近な対処方法についての講習会を開催しました。これは今後も継続し「災害に強い町」にしたいと考えています。

今後はアパート・マンションに入居される方々への町内会活動への参加のお願いなどを積極的に行い、町内住人一同力を合わせて「安心して暮らせる明るい町を目指して努力していきたい」と考えています。

地区長 秋山 尚夫

【荒川沖西二丁目】平成20年10月

荒川沖の地形は、海拔24〜25mの「筑波稲敷丘陵」とよばれる台地上にあり、その大部分が関東ローム層に覆われて、水田よりも畑作地が多いことから、昔から麦、陸稲、野菜などの生産が盛んです。

旧6号国道沿いは、かつて水戸街道の宿場町として栄え、今でも往時をしのぶ建物が市指定文化財として保存されています。

荒川沖西二丁目には、6号国道の東大通り交差点を越えた、荒川沖の入り口に位置しています。6号国道の西側の乙戸町と隣接し、旧6号国道をはさみJR常磐線付近まで、南側は、県道館野荒川沖停車場線付近までのやや広めのエリアで、約470世帯約1000人が住んでいます。

町内会の主な行事は、初春の稲荷神社初午祭、子供たちが楽しみにしている夏祭り、そして秋には、長寿を祝う会や市民体育祭、防災訓練などのイベントが開催されます。中でも、7月下旬の土、日曜日に行われる「夏祭り」は、西二丁目、西三丁目、西三丁目が連合して行つ一大イベントで、今年も26

日、27日の2日間に行われ、にぎやかに行われました。この祭礼で注目したのは、「荒川沖天神ばやし」の見事な舞いと演奏です。演奏しているのは、地元の高校生を中心としたメンバーで、その演奏は、まるで「東京〇〇社中」のブコのように迫力十分で、初めて見聞きする人は驚きます。祭りは、各地でも盛んですが、「荒川沖天神ばやし」の演奏は、その力量が特出しており大いに自慢できるものです。夏祭りの他にも防災訓練などが三町内会の協力で盛大に行われ、イベントを通じて町内間の親睦がはかられています。

町内会組織は、部門別に組織化されていますが、特に、ボランティア活動による防犯パトロール隊は、結成以来、隊員の皆さんが、昼夜町内の隅々まで目配りをしています。お陰さまで、町内で犯罪が発生したという声を久しく聞いていません。パトロール中には、住民の方々から「苦労さま」の声や、子供たちの元気なあいさつに「犯罪ゼロ」への気持ちも高まります。今年度には、町内会役員全員が、違反広告物除去活動に関する資格を取得して土浦市から「違反広告物追放推進団体」の認定を受けました。

町内会役員、自主防災会員、防犯パトロール隊員、そして町内の皆様と協力しあい「明るく、安心な町」住みよき町づくりを心がけてまいります。

地区長 川田 正敏

【荒川沖西二丁目】平成19年3月

私達の町内は、常磐線荒川沖駅西口より、県道館野荒川沖停車場線、旧6号国道の西側に位置し昔の面影が残る往時を忍ばせる384世帯（マンション「みらい」）を有する町内です。

町内の主な行事としては1月1日には「元日祭」これは学問の神様として知られる荒川沖天満宮で合格祈願を行い、参拝者には樽酒、甘酒、つきたてお餅が振舞われるものです。2月には「初午」が荒川沖稲荷神社で行われます。この荒川沖稲荷神社の奥の院に有る椎の太木は、平成12年11月3日の土浦市市制施行60周年記念においてふるさと土浦自慢百選に認定されています。7月には「荒川沖西区八坂神社祭礼」が行われます。これは、子供神輿、大人神輿、山車を繰り出して、そろいの半纏を着用し、盛大な荒川沖天神獅子で賑わいます。12月には「自主防災訓練」これは荒川沖消防署員の指導により町内上げて実施しております。

平成16年12月には「荒川沖西二丁目防犯パトロール隊」を、隊員50名にて結成し防犯ボランティア活動として、安心で安全な街を目指し、児童の登下校に同行しております。また日夜巡回パトロールも実施しており、平成18年12月には「土浦市違反広告物追放推進事業団体」に認定され、街の自然景観を美しく安全に保つための活動をしています。

私達荒川沖西二丁目町内は、ごみゼロ、犯罪ゼロをスローガンにし、子供

たちへの思い出づくりと住み良い街、住んで良かった街を目指し活動を続けて行きたいと考えております。

地区長 飯嶋 正之

【荒川沖西三丁目】平成22年3月

「歳末防犯パトロールの実施」毎年12月に特別に防犯パトロールを実施しています。21年度は12月5日に実施いたしました。

防犯パトロール隊を中心に、町内一般住民の方から、子供会、千寿会に至るまで、幅広い住民、更に荒川沖交番所長、荒川沖小学校校長・教頭、市役所職員、市青色パトロール車など各層のご参加をいただき町内をパトロールします。スタート前、子供達の「防犯ブザー」の使用点検を確認し合って、出発。町内は狭い道路が多いので、A・B二つのグループに分かれて、「危険箇所」「空き家」「防犯灯の状況」「子ども110番の家」等を確認してゆきます。

「防犯パトロール隊」は、33名の有志で構成され、毎朝の登校時並びに週一回、昼と夜に、三班体制で町内を巡回しています。パトロールを通じて町内の相互理解を深め、事故のない、安心して暮らせる町を目指しています。

地区長 明間 鉄夫

【荒川沖南区】平成22年10月

荒川沖南区は、土浦市の最南端に位

置し土浦市の南の玄関口となつてい
ます。町内は東西・南北ほぼ1.5キ
ロの菱形の地形で森林が多く、花・盆
裁・花木などの農家が点在し緑豊か
な街並みを形成しています。

戦前、水戸街道沿いに枝振りの良い
松並木が並び、約50戸が点在したのど
かな南区は現在、朝早くから、夜遅く
まで東京に向かう大型トラックが唸
りをあげて行き交う交通戦争の動脈
国道6号線をかかえております。沿線
には飲食店やアパートも増え、世帯数
300戸、町民も850人を超えてき
ました。町内の主要な名所旧跡を次に
紹介します。

「法華宗陣門流妙向寺」

南区の名刹、妙向寺は常陸国に新田
開発と一寺建立の大願のもと宝暦12
年(1762)にこの地に建立されま
した。以来、幾たびか火災で焼失があ
りましたが、その都度熱心な信徒の寄
進もあり不死鳥のごとく再建され、今
日の24世住職の、田内孝昭氏に引き継
がれています。

春秋のお彼岸、週末の門徒のお墓参
りが絶えません。

「八幡神社(合祀・神明社)」

1年7か月に及ぶシベリア抑留生
活から奇跡的に帰国した当社社弟子
の、鈴木重雄氏を中心とする氏子仲
間が多額の献金を募り、寂れた神社
の鞘堂を寄進し平成4年8月八幡神
社はよみがえりました。南区と東区
の氏子それぞれ10戸が1年交替で毎
年神官を呼んで11月に祭りを実施し

ています。

「昭和稲荷神社」

昭和の初め移転し建立された昭和
稲荷神社は、児童公民館に寄り添うよ
うに建ち、五穀豊穣、無病息災などを
祈願する町民が後を絶ちません。

神官を迎えての初午祭、二の午祭に
は多くの町民がお参りをし、公民館で
直会(なごらうい)をし、交流を深めてい
ます。

新旧の町民は昔からの良い伝統を
受け継ぎ、2月は1泊の親睦旅行会、
3月は昭和稲荷の初午祭、4月は乙戸
沼公園までの歩こう会、8月は納涼盆
踊り大会、9月は敬老祝賀会、10月は
市民体育祭など盛り沢山の町民行事
を楽しんでいます。

また、町内には消防28分団、親和会、
若芽会(老人会)子ども育成会、荒川沖
ナイツジュニア(小学生野球)川真田
踊りの会、カラオケ会、習字の会など
の活動が盛んです。中でも、雨の日も
風の日も、常磐線の踏み切り立ち小
学生を送迎する防犯部の大塚一嘉氏
率いる43名の活動は防犯のみならず、
町内の融和と活性化に大いに寄与し
ています。

地区長 林田 憲太郎

乙戸小学校地区

【乙戸町】平成19年11月

乙戸の地名の由来は、乙戸沼の形が
昔はこの形であったことからだと聞
いております。また、位置的には土浦

市の一番南
西にあり、
つくば市に
接してい
る?地域で
す。(市販
の一般地図
を見ると乙
戸のエリア
が広く?印
と表示され
ています)
私は縁が
あって20数年前に引っ越してきました
が、その折地図を買って地域を確認
すると、その広さに驚きました。しか
し、地元の方に聞くと、乙戸の一部に
旧水戸藩の御典医小山田さんの所領
地があり、そこは町会を別にしてある
のだと聞きました。その範囲は入組
んでいて判りにくい状況にあります。
それにしても、町会の広さ田畑・山林
を含めて標準な町会の数倍の広さか
あるので、町会の隅々の状況を歩いて
確認する気などは起きず、自転車
走っても結構大変です。

町名	地区長名	世帯数
乙戸町	下村 利充	979
小山田町	滝田 正	240
乙戸南一丁目	橋野 賢	495
乙戸南二丁目	福島 武彦	494
乙戸南三丁目	小泉 孝男	379
5地区	世帯数合計	2,587

(R2.4月現在)

また、土浦市全般に言えること
が、旧村を引継いだ町会のため、区画
整理が十分に行われておらず、隣の町
会との境が道路や川で仕切られてい
ないので、宅地開発に伴い隣の家が別
町会という接点が多くなっており、一
般の方では当町会の範囲がますます
判りにくくなってきております。
現在は800強の世帯数ですが、

年々宅地開発が進んでおり、今後も住
民の方が増えることが予定されてお
ります。

乙戸では、新しい住民の方が増える
中で、地域のコミュニケーションを図
る一つとして、夏祭りを実施しており
60人程の班長さんと地域の各種団体
(JA婦人部やスポーツクラブ、子供
会等)と一緒に準備作業から食
事の世話をし、祭り当日は皆で汗を
流して親睦を深めています。

お祭りのお囃子会も年々腕を磨き、
今では他の町会からも参加する子供
が増えてきております。

他にも、防犯パトロールや防災訓練
などを通して、地域の安全と住み良い
街作りに勤めて行きたいと考えてお
ります。

地区長 吉田 幸一

【小山田町】平成21年10月

小山田町は、南が下地区二牛久市に
隣接、北が上地区つくば市に隣接す
る町です。位置的には表紙の【つちら
の町の概略マップ】点線のあたりとな
ります。

町名は、キツネが鳴く荒野に旧水戸
藩士が「小山田農場」として開拓され
たことに由来します。冒頭に小山田町
と書きましたが、これは通称の町名表
示であり、正式には「乙戸番外地」とい
ういわゆる「重呼称地域」で、役所での
手続きが混乱したり、宅配業者が困っ
ているのが現状です。また番外地とい
う表示には好ましい印象がないため、

有志が町名を「小山田」に一元化しようとして推進委員会をつくり土浦市に働きかけた結果この8月1日より実施されました。県道、館野荒川沖停車場線を境に北側を「小山田一丁目」南側を「小山田二丁目」となりましたので今後ともよろしく願います。

近年は、新住民も増え子供育成会の活動も盛んになりつつありますが、逆に高齢者の集いなくなつて久しく活動が望まれます。また、公民館の老朽化や上下水道事業計画の遅れなどの問題を抱えています。皆様と協力し合い一つひとつ解決し住みよい町内づくりの心がけていきたいと思ひます。

地区長 山崎満

【乙戸南一丁目】平成20年10月

乙戸南一丁目地区は、30年ほど前に開発された乙戸南団地の中の、二丁目、二丁目と並び一地域です。

現在、おおよそ400世帯で1200人が生活しています。アパート等の集合住宅も幾棟ありますが、その他は戸建て住宅が並ぶ典型的な住宅地域です。地区の大半が第一種低層住宅専用地域で、商店はなく、住民は日常的なちょっとした買い物のためにも地区の外のスーパーやコンビニへ出かけていくことになりました。そうした点多少の不便もありますが、それと引き換えに緑豊かな閑静な環境が得られています。

地区の外縁三方は田んぼや畑、林に

接しており、乙戸川がすぐ近くを流れています。地区内各々の家の庭にも樹や花々が多く植えられ、季節に応じてバラやノウゼンカズラ、サルズベリ等が塀を越えて枝を伸ばし、路に花弁を落とします。ヒヨドリや柿、姫リンゴ等も見られます。家々の間には空き地があり、雑草の繁茂が嫌われたりもしますが、野生化したポピーやラヒメシヨオン、クズやノイバラ等々、野趣あふれる魅力を見出すことも出来ます。鳥も多いです。ムクドリやカラスは当たり前でしよつが、ヒヨドリやキジバトもいて、初夏にはホトトギスの声が聞かれ、冬には乙戸沼に渡来した白鳥が屋根の上を越えて行きます。

歴史の浅い地域なので、神社仏閣など話題にすべきものはなく、伝統的な行事やお祭りの類もありません。住民総出の催しとしては、他町会と同開催の市民体育祭や防災訓練といったものがあるだけです。暮らしては穏やかです。もちろん住民相互の交流がない訳ではありません。子ども会や、高齢者の集まり「福寿会の活動が活発です。地区内唯一の公園である「下の内児童公園」や、三町会共同管理の「ふれあい広場」は、清掃整備の行き届いた美しい憩いの場となっていますが、これはみな住民が協力し合つて管理して来た結果です。月一回の町内一斉清掃には多くの人が積極的に参加するので、地区内の街路は大変きれいです。ゴミ置き場も清潔です。これは地主さんの好意で場所を借りていると

いつ事情もあつたことなのでしょうが、良き住環境を皆のものとして守つていこうという住民の意志が、こうした所にも現れているのです。

わが地区では、地区長も含め町会役員全員について1年交替の当番制で担当します。私も本年4月就任の新米地区長であり、この報告は分からないことだらけの中で書きました。至らない点が多いでしょうが、ご理解賜りますよう。

地区長 笹本純

【乙戸南二丁目】平成18年10月

乙戸南には三町会が有りますが、その中で二丁目には乙戸小学校や乙戸郵便局、乙戸南児童公民館、乙戸南公園があり、乙戸南団地の中心といえます。

公民館は、乙戸小学校の学童クラブ「なかよしクラブ」が使用している関係で各サークルは午前中か和室を利用して使います。水曜日の囲碁将棋は、団地内の方だけでなく他の町会の方も多数参加されていますが、春休みや夏休み期間中はなかよしクラブが午前中に和室を利用するため、午後だけの使用となり迷惑をかけています。ただし将来は、乙戸小学校敷地内に学童クラブ専用の建物が建設される予定なので、少子高齢化の中、働ける女性が安心して能力を発揮できるようご理解とご協力をお願いします。

乙戸南公園では、月水金の午前中に福寿会を中心にグラウンドゴルフを開

催しています。9コース内の整備は、会員の方が除草等されていますが、コース外については町会で草刈りを行い、環境整備に努めています。乙戸南公園の悩みは、夕方や夜間に散歩に来た犬がドックランの状態になり、グラウンドゴルフの開始前にコース周辺の犬の糞をかたづけなければならぬ事です。よちよち歩きのごとも達も遊びに来ていますし、春先や秋には、つくば市内の保育園や幼稚園の園児が遠足に来ていますので、飼い主の方は責任をもって片づけてくださるよう明るい町づくりにご協力をお願いします。

また、二丁目には稲荷児童公園もあります。そこへ今年度中に防災用の井戸を設置して、万が一の際の水を、確保する事も考えております。

地区長 宮本博海

【乙戸南三丁目】平成22年10月

乙戸南三丁目町内会は乙戸沼の南約1キロに位置する乙戸南団地の西側の一画で同団地の3分の1に相当する区域にあたります。旧新興住宅地の例にもれず、名所旧跡、伝承伝統など他地域の人々に紹介できるものほとんどないのは残念です。

荒川沖駅から伸びる県道に面し、西大通りから近いところに位置します。また、県央道のつくば牛久インターからも近いので、つくば中心部や牛久への通勤、高速道路を利用しての遠出など車での移動には便利な環境にあり

ます。荒川沖への路線バスは既に廃止されましたが、ひたち野牛久駅の設置によって西大通りに路線バスが通るようになり、何とか駅への公共交通機関は存続しています。

当町会はおよそ270世帯が加入しています。町内には一戸建ての住宅や集合住宅のほかに、団地内のほぼ真ん中を貫く広い通り沿いにはベーカーリー、造園業、内装業、医院、薬局があり国道6号線につながる県道沿いには建具店、クリーニング店、動物病院、理髪店などがあります。体調がすぐれない時や衣類のクリーニングを頼みたい時、コーヒーとサンドイッチでちよつと一息つきたい時は、近所で事が足りません。

ただ、食料品を扱う店舗は、一番近い店で片道徒歩20分余りと団地から離れており、買い物に便利、とはいえないでしょう。食料品店は遠い存在ですが、小学校は二丁目内に有つてとても近い存在です。交通量の多い道路を通ることなく通学できるので、小学生のいるご家庭にはとても良い環境だと思えます。

広い通りから住宅街へ入ると、一戸建てやアパートに交じつて、子どもが遊ぶのにちよつと良い原っぱや、野菜作りや花の栽培が楽しめる畑が見られます。育てられる野菜の種類は時期によって変わつてくるので、季節を感じることが出来ます。夏はナス、じゃがいも、トマトなどが、冬は大根、人参、ほうれん草などが丹精込めて栽培

されその出来映えも大変見事なもので、お店で売つても良いのではと思えるものも珍しくありません。

町内の行事としては、秋に開催される市民体育祭と防災訓練があげられます。ごちからも事前の準備は役員が中心になつて行いますが、特に大仕事となるのは、市民体育祭の競技毎の参加者を決める作業だと聞いています。大変ではありますが班長さんや子ども会が協力してくださるおかげで、毎年無事に体育祭当日を迎えることが出来ています。近年は連続して対抗リーグで上位入賞を果たしており、今年も好成績を狙つての盛り上がりが見られます。

町内会の役員は1年交替で、今年度も4月に新しい顔ぶれでスタートしました。町内の皆様のご協力をいただきながら、役員を全うしてまいりますので、よろしくお願ひします。

地区長 井崎雅彦

中村小学校地区

【中村東町】平成18年10月

我が町は、中村東一、二、三丁目に住する所帯で組織されており現在346世帯が加入しています。昨年町内会では近年多様化する町民ニーズに対応するため、土浦市からの補助を得て公民館の立替えを行いました。この公民館の特徴は住宅地の一角に位置しており、近隣住民の皆さんとの融和が図れるよう防音対策を強化した

町名	地区長名	世帯数
中村東町	藤野 安生	396
中村南一丁目	吉田 洋治	273
中村南二丁目	磯田 公義	326
中村南三丁目	坂越 静治	296
中村南四丁目	小神野 玄德	240
中村南五丁目	鈴木 静雄	305
中村南六丁目	鶴町 佳司	224
西根町三区	沓澤 拓也	83
西根南一丁目	森本 恒美	370
西根南二丁目	佐谷野 勝臣	289
西根南三丁目	森 浩孝	244
西根西一丁目	中澤 英一	209
卸町一丁目	-	22
卸町二丁目	-	1
14地区	世帯数合計	3,278

(R2.4月現在)

選会、模擬店の出店等多彩な内容となつていきます。秋の市民体育祭は、また優勝がなく、優勝の二文字への挑戦を毎年目標にしており、その実現が今後に大きな楽しみです。

又、町内会では防犯、防災体制の新たな整備作りにも取り組んでいきます。町民皆さんの協力を切にお願ひします。中村東町町内会

事が先ず上げられます。又館内は勿論公道からの入り口をバリアフリーとし、誰もが利用しやすい環境を整えました。館内の設備も映写会、カラオケなど町民の各種活動にも対応できる先端の機器を設置しました。次に中村東町の活動状況を紹介します。

地区長 佐々木繁美

【中村南二丁目】平成19年3月

わが町には、昭和30年代前半まで水戸街道に松並木が残つておりました。明治の末に、土族の鈴木安武さんが番地を払い下げて大規模な牧場を経営され、大きな屋敷を確保されていたので人々はそこを「大房」と呼んでいました。大房周辺は昭和18年頃から第一海軍航空廠の工員寄宿舎などが並んでひらけておりました。戦後は工員寮が、海外引揚者や戦災者の寮として開放されました。一階建ての連棟式で、鹿島、霞、筑波、結城寮などの名で

幾つも建っていました。が老朽化して
いました。

昭和35年1月にその一棟から発つた火はたちまち隣の寮などを延焼して43世帯が罹災されました。大火災に成らないまでもボヤは時々発生していたので、火事といえば大房といわれるほど土浦では火事の代名詞までなっていました。

そんな危険家を、漸時取り壊し、公営住宅などが建てられ、一大住宅地となりました。現在、中村地内だけでも18もの町内が誕生しております。中村南一丁目には、中村郵便局、大房商店街、大房児童公民館、児童公園、土浦三中、新生保育所などがあり、公民館は町内で管理と運営をし、地域のコミュニティセッションの場として利用されております。

公民館では、町内の「亀壽会」などの皆さんが定期的に出前講座やカラオケ、健康麻雀など多くの参加を呼び会員の親睦と介護予防に活動しております。町内の主な事業として、自主防災訓練、自主防犯パトロール等を実施しております。毎年、恒例の夏祭りは中村町内唯一の神田囃子保存会があり、皆様と住民が一緒になって24回を迎えるほどになりました。山車、神輿、模擬店、ジャホールと、その度毎に近隣各町内より多くの参加を呼び盛大に行われております。お祭りを通して「情熱、忍耐、逞しさ、優しさ」を子供達に伝承しております。自主防災会は、全

世帯が会員です、地域の自助、共助の精神で災害時は一人も見逃さないよう、地域の潜在能力を発揮し非常時の対応にご協力をいただいております。防犯パトロールは「自分たちの町は自分たちで守ろう」とを合い言葉に、登下校中の見守りあいさつ声かけ運動をし「あいさつの行き交う町に犯罪なし」を目指しております。お蔭様で犯罪認知件数も大幅に減少することができました。

我が町内会は、事ある毎に班長さん始め町民が、行事運営に積極的に参加し町の活性化に大きな力を頂いております。これからも皆様と連携し協働しながら「安全、安心で住み良い町づくり」に創意工夫して活発な活動を続けて参ります。

地区長 貝塚勇

【中村南二丁目】平成23年3月

わが町は土浦三中の東側に位置し、周りを中村南一丁目、中村南三丁目、中村東町に囲まれ、「コンビ」が1軒のみという典型的な住宅地で、自治会加入数は213世帯の中規模な町会です。旧来の住宅が多く70歳以上が100人を超え高齢化が進む一方、小学生が41人と希望の持てる町内でもあります。

町内会活動といえば20年近く前までは町内の空き地で賑やかに盆踊り大会が催されていましたが、再三の宅地化で必然的に消滅し、現在は①市民体育祭への参加(今年度は、選手、役

員、応援を含め90名近い参加を得た)、②近くの荒川沖消防署での避難訓練を兼ねた自主防災訓練、③ゴミ減量意識を高めるための「ながみね清掃センター見学」が三大自然事となっています。

一方、高齢者の組織である「楽遊会」と「子ども育成会」及び「二丁目力ラオケ大会」等は活発に活動しております。また、地域「防犯パトロール」は現状未組織ながらも10名余りに協力して貰い、犬の散歩時に防犯帽子を着用し自主パトロールを行っております。今後、協力者をより多く増やすとともに近い将来の組織化を目指すつもりです。

最後に他町会にお願いです！

市民体育祭開催に賛否の声が高まっていますが、我々のような町会にとつて市民体育祭は100名近くが集まれる場、町内の元気を発揮できる場、皆の元気を吸収して「明日」に向けてもう少し頑張ろうか」と思える場でもあります。わが町会は若い体育部長を中心に盛り上げを図る決意です。わが町内のためにも市民体育祭の継続と発展に協力いただけるように強く要望するものであります。

地区長 磯田公義

【中村南三丁目】平成23年10月

当町会は、中村南二丁目と北荒川沖に隣接し、世帯数が264世帯ほどの住宅地です。また、一部の場所は国道6号線に通ずる地域で、大きなホーム

センターもあり、とても便利な町であると思います。近辺には土浦第三中学校があり、春には桜がとてきれいに咲いて、穏やかな気持ちになります。

さて、他の町内でも同じかと思われませんが少子高齢化の影響で、当町内では今年度の新小学1年生として入学されたのは2名のみでした。年に一度の市民体育祭も選手の確保に困惑しているのが現状です。他の町内との合同で参加する市民体育祭は、これからも続いて欲しいですね。

また、町内活動の防犯対策として毎週土曜日の夕方に防犯隊員による町内パトロールを実施しています。隊員がそれぞれの決められたコースを歩き、危険な場所・不審者が居ないかなどの見回りをしながら、町全体をみながら声を掛け合い、防犯パトロールを行っています。その効果が当町内の窃盗犯罪発生件数が土浦市生活安全課の情報で知る限り少なくなっています。これからも防犯の一環として住みやすい明るい町・きれいな町にしようと、町全体で心掛けようと思っております。

その他、「三和クラブ」あおぞら子ども会「かけはし会」と町内の活動団体が栗畑にて、季節の花や芋苗の植え付け、草取りなど農地の手入れをしながら、秋の収穫祭に至るまで作業を続けています。秋の収穫祭では、子ども会をはじめ、各団体総出で焼き芋・餅つき・バーベキューなどの催しが行われます。町内の小さなイベントです

が交流の場の一つであり、絆を深める
とても大切な行事です。

最後に、先の3月11日の東日本大震
災で被害に遭われた皆様にご心よりお
見舞い申し上げます。一日でも早い復
興を願っております。

地区長 安川輝夫

【中村南四丁目】平成20年10月

中村南四丁目町会はユニークな「中
四鍋会」なかよしなべかいとオーソ
ドックスな「納涼盆踊り」の二大事業
があります。「中四鍋会」を始める
きっかけは5年前、町会役員が、町内
の班長さんや町会員の方々、子供たち
の顔がよくわからないので始めまし
た。その後、町会行事がスムーズに運
営ができ、いざ震災等、有事の際にと
つするかを考えて5月中旬に開催す
るようになりまし。老若男女のすべ
ての層の人、全員がネームプレート
を着けて一同に会します。有事を想定し
て、昔ながらの竈（かまど）で薪を使
い、直径1m程の大きな鍋で大人から
子供まで、設営や調理を分担して「け
んちゃん汁ごはん」を作り、みんなで頂
きます。子供たちの中には、初めてゴ
ミの分別等を学ぶ子もいると聞かま
す。空いた待ち時間には、子供育成会
が作成した「町内防犯マップ」や今年
からプラスした「町内井戸マップ」を
みんなで学習したり、ビンゴゲームを
して当たったら、順番に家族共々自己
紹介したりと、「楽しく」「おいしく」
「学べる」会を、最初は手探りでした

が、町会全員の協力を頂いて、ごこま
で育てて来ることができました。

さらに昨年・今年、中川市長をは
じめ教育長をお迎えして、普段通りの
「中四鍋会」を盛大に開催いたしまし
た。平成18年度は市から「わがまち活
性化推進事業褒賞」を賜り、平成19年
度は市の推薦を頂き、県より「近所
の底力」で表彰していただきました。

【中村南五丁目】平成21年3月

町内会は三中地区のほぼ中央に位
置し、約400坪の敷地に公民館、児
童公園を保有しております。敷地内に
桜の木も成長して花見の季節には、皆
の目を楽しませてくれます。花壇もあ
り、さわやか会の皆様の手で季節ごと
の草花が植えられており数々の賞も
受賞しています。

地区長 今井孝治

町内会の年間行事としまして、7月
に夏祭りを、昨年13年ぶりに復活しま
した。浦南成年会を主として夏祭り実
行委員会が結成されまして2日間に
わたって行われました。2日目の夜に
は山車の共演が行われ壮大な舞い
を見る事が出来、子供たちにとっては夏
休みの良い思い出を作られたことと
思います。

8月14日、15日とお盆に自治会主催
により「納涼盆踊り大会」が開催
されます。町内が一体となり、成年会、
子供育成会、町内有志の出す各種模擬
店、ヤキソバ、ヤキイカ、フランクフル
ト、焼きトウモロコシ、金魚すくい、
ヨーヨー釣りが出店されます。子供た
ちにはビンゴゲームを楽しんでもら
い、午後7時より浦南太鼓連の太鼓で
踊りが始まります。中間で休息を取
った後、浦南太鼓連若妻会の皆様を

地区長 鈴木静雄

【中村南六丁目】平成19年11月

町内会は、北には東大通り、東側は
水戸街道、南に県道荒川藤沢線の道路
に囲まれ、マンション等を含めた世帯
数221、人口540人が住んでいる
静かな住宅街です。むしろ、三中地区
公民館の近くの「小林住宅」がある町
と紹介したほうがわかり良いかと思
われます。6号線に沿って「日産自動
車」「ホンダ」洋服の「ナカ」住宅の
「タマホーム」等の企業もあります。

町内は、一部を除き大半が、昭和50
年半ば住宅開発会社によって建設さ
れた住宅で、比較的、新しい町内です。
町内会は「会員が安全で気持ちよく暮

らしている町内会を合言葉に、ゴミ問題、交通安全、道路、防犯、防災、環境等、一人ではなかなか解決できない多くの事柄を、各人が持つているそれぞれの要望や意見を出し合い、定期的に月1回の町内班長会議を町内の集会所で行い会員間の連携を高めています。

また、年間町内行事としては、まず土浦市の安全安心まちづくりの一環として、平成16年に結成した「中村南六丁目自主防犯会」の定期的なリーダー交代による町内防犯パトロールおよび子供会による小学生の登下校時の安全誘導の実施があります。

6月には町内全世帯、一部企業等の参加による「町内一斉清掃」の実施、8月には町内中央公園で、子供会と町内会合同の「納涼親睦夏祭り」も恒例になっています。カラオケありビンゴゲームあり生ビールありと、子供会町内会員の楽しみの行事にもなっています。

平成18年度においては、今まで住宅開発の建設事務所を町内の集会所として借用しておりましたが、事情があり土地と建物を町内会で購入取得するにあたり、地縁団体として町内会を「中村南六丁目町会」と法人格とし認可申請をし、12月に土浦市長より認可されました。もちろん、このような事業は、会員の参加協力が欠かせません、自分の町内会のこと自分たちの手で、という意識のあらわれでしょうか、法人格にとま

「町会規約の改正」それに「銀行に融資申込み」など難問もありましたが、市の指導等もあり、スムーズに事が進んで無事、土地、建物等の移転登記等も完了しました。

今後は、小さい「町内集会所」ではありませんが地域コミュニティ意識の高揚を図るための拠点として「安全で気持ちよく暮らしている町内会」を目指し活動している発展途上の町内会です。

地区長 谷口 實

【中村南六丁目(その後)】令和2年3月

「みんなの手で楽しい町内」
中村南六丁目は地域の開発・分譲により昭和60年に発足し町会として35年が経ちました。

発足当時は、働き盛りの第一世代とその子ども達（小学生や中学生が多）い町会でした。当時の課題は新しい住民の交流と子ども達に心の故郷づくりでした。納涼夏祭りや子ども神輿、ソフトボールやドッジボールの練習など大人同士の交流、子ども達同士の交流、大人と子ども達の交流があり活気が満ち溢れていた町会でした。

現在は、第一世代が独立し他地域で暮らすようになり、少子高齢化が進んでいる状況です。

このような状況を考え、3年前から「みんなの手で楽しい町会」を町会のキャッチフレーズにして住民同士の助け合い、大人と子どもとの触れ合いを柱に町会活動を行っています。

町会の四つの大きな活動「町内一斉清掃、納涼夏祭り、市民体育祭への参加、防災訓練」の他にボランティア活動として公園清掃活動と子ども達との交流活動が挙げられます。

公園清掃ボランティア活動は、10年前、一人のボランティアの方が刈り払い機を使って小林住宅第2公園の草刈から始まりました。今は12人のグループとなり、名称も草刈多愛くさかりたあ〜い」となりました。活動は月1回（4月から11月）小林住宅第1公園、小林住宅第2公園、県道広岡荒川沖線側の第9公園の3か所の草刈りと公園の美化活動を行っています。

公園をきれいにしておくことで、公園を利用する人が増え、親子や祖父母と孫がふれあう場所、ウォーキングや散歩の休憩場所、子ども達や高校生の語らいの場所となっています。また、きれいな公園は防犯・防災、青少年の健全育成にもつながります。最近では公園の隣接者の方が道路の落ち葉等の清掃も行ってくれます。

3年前に結成された年輪会(高齢者のグループ)のボランティア活動として、子ども達の登校を見守る活動と子ども達や保護者との交流活動があります。

今年の交流活動は、夏祭りでの夜店活動と手作りおもちゃのワークショップ、輪投げ大会、消しゴム版画の年賀状作りを行いました。少子化により地区子供会が休止状態なので親子で参加する家庭もあり保護者から

も喜ばれています。
次年度はふれあい活動を定期化し、予定を立てやすくし、さらに活発化しようと考えています。

地域の人々とのふれあいが多くなることは、助け合う心が花が育ち、やがては地域の人々の花が広がり、助け合う心が花が咲き誇るようになると思います。助け合う心は、非常時の大切な自助、共助、公助の活動の共助（地域での助け合い）が培われていくのではないだろうかと考えています。

地区長 鶴町 佳司

【西根町三区】平成20年3月

今、土浦市全体を見て一番開けた地域だと思います。私は、学園東大通りが完成間近の頃、この地に来ました。何もなかったあの農村地帯でしたがその後、宅地開発や道路設備が活発化する中、近くに土浦公設市場、高速道インター、そして隣の草むらには、住宅が建ち並び新しい町会が誕生するなど、当時を思うと想像もつかないほどの発展ぶりです。ただ、町中に広がる畑や土浦清掃センターを囲む雑木林など美しい自然は昔のままです。

現在、世帯数76、人口206人、三中地区では、一番小さな町です。町会エリアの中心となるのが、県道荒川藤沢線をつくば市に向かう途中、田畑に覆われた地区です。農業で栄えた地域ですが、現在町内で従事している方は、10軒くらいです。後継者も少なく、少

すつ荒地も見えはじめているのが現状です。

活動の拠点となる公民館は、広大な畑を背景に平成7年に建てられました。中には一枚の額が飾られています。『又城館遊』当時、建設に力を尽くされた区長直筆の書です。『又城』とは、西根三区と定められる以前、この地域だけで使われた名称とされます。今でも地元の人に、使われています。町の憩いの場として大いに利用し、生活の向上を高めようとの思いで書いたと言われています。

5年前までは、行事も多彩で町会も活気がありましたが、今では、少子化が加速し現在小学生は、4名、子供会が解散、夏祭りも中止となり寂しい状況です。町全体の行事は、西根西一丁目さんと合同チームで出場する市民体育祭だけです。そんな中、町に活性化を取り戻そうと昨年7月防犯パトロールを結成、一人ひとりが防犯意識を高め安心して暮らせる町内会を目指して役員ほか大勢の有志が定期的に町内を巡回しています。

同時に、婦人部30名くらいで西根三区親睦会を発足、毎月そば打ちや工芸と楽しんでいきます。また、80歳前後が中心で結成した『中老会』。歌や踊りと百歳の『大老会』目指してがんばっています。

今、少しずつ気運が高まる中、期待しているのが、これから子育てを迎えようとする若者や入学間近の子供達が、人口の二割以上も占めていること

です。『又城館』で、子供達の笑い声が聞こえてくるのもそう遠くないと思っています。

発展途上の町内会ですが、地域活動を通して住み良い町づくりを努めて参りたいと考えております。

地区長 坂東守

【西根南二丁目】平成21年3月

うちの町は、昭和60年旧中村西根地内に誕生し、今年25年を迎えました。町は国道6号線の西側に沿って位置し、現在およそ800人・300世帯が暮らしています。住みよい町ですが難を言えば町内の道路が狭いこと、車の行き来が難しい古い通路が残りの改修が急がれます。

自治会は町の誕生と共に発足し、新旧住民の融和と親睦を目的にめざましい活動を続けてきました。平成元年には児童公民館も完成して多彩な活動の拠点としています。これらは草創期から今日まで歴代の役員・会員のみなさんのたゆまぬ努力によるものです。

会の組織は四部会からなり、子供育成会・成年会・婦人会・老人会がそれぞれ活動しております。『盆踊り大会』はじめ主な行事は各部会あわせて協力し「市民体育祭」に見られるよう見事な結束力が誇りです。初夏の「ふれあいの会」、初冬の「芋煮会」には多くの人が集いながやかな一日を楽しみます。正月を迎えれば成年会に

よる「夜警」が始まり町内の防火・防犯に努めます。異常な事件が多発する昨今、通学路での見守りや不定期パトロールも試みるなど犯罪や事故の防止を図る工夫をしております。また環境美化・保全にも力を入れており成果を上げています。

自発的に町内の空き缶を收拾してくださる老人会有志もおられてとても感謝しております。既に70歳以上が100人に達し高齢化が進む今日です。

今後の課題は会活動への積極的な参加を求めて、うちの町の持続的な発展をめざすこと、誰もが安全で安心して住める町を次代につないでいきたいと願うものです。

地区長 櫻井忠男

【西根南二丁目】平成19年11月

私たちの町はアパートを含め世帯数が約300のこれといった商店もなく、公園も広場もありませんので、外見的にはあまり特徴のない町会です。とはいえ、夏祭りや、市民体育祭などの行事には地区長、副地区長を中心とした幹部役員26名と班長20名、それに大勢の有志を加えて盛り上げる活気のある町会です。

活動の拠点となる公民館は、全国で初めて太陽光発電システムを備えたバリアフリー公民館として、市の補助と町会の皆様の協力により、平成10年に建てられました。その公民館は、各種会議や行事のほか毎週ラフォーテ

会や太極拳、エアロビクス、ヨーガ教室などに幅広く利用されています。環境にやさしく、障害者やお年寄りにやさしい公民館として新聞やNHKで報道され、土浦市制60周年記念で「ふるさと土浦自慢百選」に選ばれました。

町会の一大イベントであります夏祭り「親子ふれあい広場」は、今年で14回目を迎え、離れて暮らしている家族や親戚が集まったり、町会の人たちのふれあいの場として定着しています。また、高齢者クラブ「竹寿会」の活動も非常に活発で、交通安全への取り組み、健康増進・教養の向上への取り組みなどと多彩に活動しています。町会運営の基本的な考え方は

- ① 誰もが声をかけ合う活気のある町
 - ② 明るく犯罪のない町
 - ③ 障害者やお年寄り、子供を大切に
する町
 - ④ 散乱ゴミのないきれいな町
- を目標に、役員一同気を配りながら運営を行っています。

地区総務部長 青木浩三

【西根南三丁目】平成24年3月

農地の広がる閑静な住宅街
私たちの生活している西根南三丁

目は、中村小学校に隣接した北西の一帯で、小学校の校庭が約5個分の畑と約1個分の山林が町内を占める閑静な住宅街です。旧・竹ノ入の一部と旧・三区の一部で構成された現在の行政区画になってすぐに自治会が立

ち上げられ、26年目を迎えています。
 「自治会員全員参加による自治会運営」をポリシーとしており、自治会、三寿会(60歳以上の方の会)、子ども育成会、サロン会(三世代交流の会)、防災会の協力体制も整ってきています。

町内の活動としては、年度始めの自治会総会に始まり、夏の納涼祭、敬老会、市民体育祭、そして年一度の西根南三丁目防災訓練が行事の軸となっています。平成22年度の中村小学校地区市民体育祭で、自治会始まって以来の「総合第3位」入賞となり、盛り上がりを見せました。

ところで、防災会は自治会員全員が所属していますが、町内独自に20〜40代を中心にベテランを交え西根南三丁目防災団を組織し、他地域の防災訓練・講習会などに参加し、有事の際に地域での救護ができるように給食・給水・情報収集・伝達・救護の各担当を決め備えています。…が、3・11大震災では、東京勤務あるいは出張中で、帰宅難民となった団員をはじめ、通信による連絡ができず、地域に戻ったものが、各自町内を巡回するにどまりました(おりしも防災訓練を3月20日に予定していました)。

今後は、町内のコミュニケーションをさらに深めることも、各自の防災意識を高める活動を中心に、楽しく明るい地域を目指します。

地区長 森浩孝

【西根西二丁目】平成20年3月

20年前のバブル期には多分、西根西二丁目、三丁目宅地開発をする予定だったのでしょうが、現在のところ西根西には一丁目しかありません。面積は縦横250m四方の狭い地域ですが、中心部にはまだ未販売の大きな空き地も有ります。町内には100戸未満の戸建て住宅と約100世帯のアパートがあります。東大通りを南下すれば、つくば市との境にあり、研究学園都市に勤務されている方が多いようです。新しい町なので、親睦にも努力していて、自治会規約の目的にもなっています。

親睦をはかるために、バーベキュー大会や一斉ゴミ拾い、空き地を利用した菜園作り、ボランティアの方々によるパトロールなどを行っています。パトロールは集団でなく、都合の良いときに個人個人で行っています。子供達や町内の人に声をかけられて、親睦と同時に空き巣被害の減少に非常に役に立っています。

西根西一丁目は小さな区域ですが、隣には卸町一丁目・二丁目という大きな区域があります。卸町の方々は、自治会ができて独立するまでは、私共の自治会に加入できることになっていません。

卸町に隣接してこの戸沼公園がありますが、この公園も当自治会の範囲として沿の浸漬、桜の天狗巣病処置、ホームレス対策、放置自転車の処分、

二ワトリの捕獲、犬の糞始末の掲示などを市へ何度も要望しています。区域が荒れますと、安全で平穏な生活ができなくなりそうです。また、この公園では毎日大勢のウォーキングをしたり、子供達を遊ばせたりしています。また冬鳥も飛来しています。

自治会の地域だけでなく、周辺地域、そして土浦市全体にも目を向けて自治会活動をするように心がけています。

地区長 吉村喜男

東小学校地区

【中村町二区】平成20年10月

中村一区は陸前浜街道ができ、水戸藩の参勤交代(江戸時代諸国の大名が原則として1年おきに江戸に出て勤務した制度の道として発展して来た町で大名行列は必ず中村に本陣を張り1泊したと言われています。その家は当時川村茂左門という人の家で、今も屋号を本陣と言われています。

その隣の屋号は伊勢屋と言われておりますが当時大久保治右門という人が「とぎや」をしていたそうです。「とぎや」とは行列の方々の荷物を次の宿泊所までとどける仕事で、今でいう運送屋でしょう。しかしその仕事をするには伊勢神宮にお参りをしなくてはならなかったのです。当時お伊勢参りをしてきたそうです。それから伊勢屋とよぶようになったそうです。

また市村さんが料理屋と宿屋を、栗原さんも柏という屋号で宿屋をしていたそうです。

当地区は、土浦町と合併する前は新治郡東(あすま)村でありました。合併後に東(あすま)が残っておりるのは東小学校だけとなりました。

地区長 大津博

【イーストガーデン】平成19年11月

土浦市内には現在173の町内会があり、各町内会とも独自の活動を展開しています。その中で仮名文字の町内会名は我が町内会のみです。町内会名は、開発業者の開発工事名「つくばイーストガーデン」の頭文字「つくば」を削除したものです。町内会新設申請時に、窓口の市民活動課

町名	地区長名	世帯数
中村町一区	岡野 一郎	807
イーストガーデン	中野 良二	(83) (中村町1区に含む)
中村町六区	直江 悦子	196
中村町八区	根本 美輪	48
西根町一区	下村 正人	123
西根町二区	島崎 昭一	77
仲の杜	澤野 浩	(120) (中村町1区に含む)
7地区	世帯数合計	1,251

(R2.4月現在)

から仮名文字名を変更してほしいとの指導もあったのですが、親しんできた町名だったので、そのまま町名として申請しました。

町内会の規模は世帯数83、世帯主の年齢構成は30代と40代の計が全体の約87%、児童数57名、町会新設が平成13年で満六周年をむかえた若い町内会です。世帯主の出身地は約30%が茨城県内で、70%は北海道から九州までと広範囲となっております。また、世帯主の勤務地は50%が土浦市及び周辺地域、50%が首都圏周辺となっております。

町内会の世帯数が少ない点では情報の浸透は早くまとまり易いのですが町内会活動面では活動資金で苦勞しています。町会には公民館(集会所)はなく各種打合せ会合等には三中地区公民館で行っていましたが町内会役員会開催時、夫の代理で出席する場合、往復の時間を含めて家を留守にするのが大変になります。また、会員が在住7〜8年と短く、出身地も広範囲のため会員間の交流を計る目的で、7月夏休み最初の土曜日に、サマーフェスティバルを公園で町内会設立時より開催しており、一部は児童対象のゲーム催事、一部は会員対象バーベキュー大会となっております。当初、ゲーム催事の種類の種類、数量で苦勞しましたが、2〜3年前から順調にできるようになりまして。昨年から隣接の中村東町内会との交流も実施し、公民館の使用、各

種行事の交流と活発になっていきます。その結果防災、防犯、交通安全に寄与するよう環境になってきています。

会員は班長1年と役員1年の計2年間、町内会執行部に籍を置き活動しており、毎年スムーズに引継ぎできる町内会になりました。今後他町内会の成功事例を収集し、我が町内会に取り入れ、さらに、住みよい町内会を目指していきたいと思えます。

二元地区長 青木 健泰

【中村町六区】平成21年3月

通称、「原の前」で知られています。中村町六区は、現在185世帯が自治会に加入しております。

さてこのたび、念願の公民館が出来上がりました。三代目ですが、先代の公民館は昭和42年に建てた木造でしたので近年老朽化が著しく、雨漏りなどの維持にすいぶん手を焼くものでした。これまで何度となく立替が検討されましたが、場所・資金など色々と難題があり、なかなか立て替えるまでには至りませんでした。しかし、老朽化による劣化は年々酷くなり待ったなしの状態となりました。遂に平成14年度臨時総会において、資金面は自助努力として各戸が数年にわたり積み立てを行うこと、土浦市から補助を受けることとして、従前と同じ場所に立て替えることになりました。

今回の建物は、木造二階建ての瓦葺で延べ169㎡です。中には板敷きのホール一部屋と和室八畳二間があり、和室は二間続きに、さらには襖を外すことにより全部の部屋を通して大広間として使うことができます。板敷きのホールは椅子席で50名程度収容できますが、大広間にしますと座蒲団掛けとすれば、きつめですが100名程度は収容できます。付帯設備として、料理教室などできるようにシステムキッチンのほかに料理用厨房を備えています。もちろん、身体の不自由な方にも楽にお使いいただけるよう玄関スロープやバリアフリーの床面、トイレとなっております。これから建築計画をお持ちの町会、自治会の方は参考までどうぞ見学にいらしてください。

地区長 山崎 建志

【中村町八区】平成23年10月

中村町八区は土浦市に12ある県営アパートの中のひとつで、平成5年から平成9年の建築工事を経て、現在の全六棟、64世帯から成る地区として完成いたしました。人口1900名(平成23年7月1日現在)は土浦市にある地区別人口及び世帯数としては小さな地区に分類されますが、敷地内には公園・集会場を完備しており、公園では小学生が毎日遊んで、元気な声が絶えず聞こえております。

中村町八区では、次のような活動を通して、地域コミュニティの活性化に

- 取り組んでおります。
- 環境活動
 - ・年2回(春・秋)の町内二斉清掃
 - ・夏には育成会による公園清掃
 - ・週2回のゴミ集積場清掃(当番制)
- 地域安全活動
 - ・週1回から2回の防犯パトロール
 - ・(ゴミ集積場清掃担当)による活動
 - ・育成会による小学生登校時横断指導と防犯パトロール(育成会にて行っております横断指導及び防犯パトロールはイーストガーデン地区と協力し実施をしております。)
 - ・その他活動として育成会を中心とした市民体育祭への参加。

以上のように、大きな町内活動はできておりませんが、自治会役員と育成会役員が協力し、円滑な活動を心がけております。また、自治会役員の任期が1年と短い期間のため、住民の皆さんの協力あつての自治会運営となっております。今後中村町八区全員が一体となって地域コミュニティの活性化に努めてまいりたいと思っております。

地区長 浅野 昌弘

【西根町二区】平成20年3月

鹿嶋神社の紹介

西根一区に鎮座している鹿嶋神社を紹介いたします。神社は西根一、二、三区、中村一区の氏子により形成されています。神社は社伝によれば創建は応永2年(1395)稲敷郡阿見町竹来の阿彌神社の祭神を勧請したと伝えられています。

本殿は平入りの二間社流造で屋根は茅葺(かやぶき)。軒の組み物は一手先であり、浜縁には脇障子はなく、高欄の四隅の親柱は神社建築では少ない唐様宝珠(からようほつじまづ)の逆蓮頭が付いています。建物には彫刻などの飾りが少なく、明和8年(1771)、嘉永5年(1852)屋根葺き替えの棟札が残されています。

平成10年本殿保護のため、覆屋(鞘堂)を建てました。拝殿は梁間二間、桁行二間の建物であり、桁行中央の一間は美寸で二間分あります。屋根は茅葺の寄棟造り、本殿より構法は新しく、江戸時代の後期の建築と推定されています。鳥居の形式は柱の前後に袖柱をもった西部鳥居で建築年代は不明です。

本殿、拝殿、鳥居及び棟札六枚は土浦市の文化財に指定されています。本殿境内には愛宕神社(火防の神)、稲荷神社(五穀を司る神)、天満宮神社(学問、進学の神)、金刀比羅大権神社(海神、交通の神)、雷神社(雨乞いの神)などが祀られています。

年中の祭事として元日祭りを始めとして、12月31日の除夜祭まで幾多の祭事が行われています。掃除も長寿会により祭りの2、3日前に行っています。

また一、二区には昔から鎌倉街道といった道路もあり(馬が行き来した所(馬見塚など)いまだに残っている寺社など3か所くらいあったそうです。東光院など今も字(あざ)で残っています。

ます。

昔から神として現在も祭りの行事が行われている不動様、数年前から行事が行われなくなった観音様もありましたが、観音様は永国大聖寺に奉納しました。不動様、観音様は共に立派なものです。不動様・観音様も西根には字地番があり不動堂、観音堂といった字があります。

西根一區公民館には不動様が祭られていて、月に1回ほどの祭りが行われています。

地区長 池辺俊男

【西根町二区】平成23年10月

平成元年にスタートし早いもので今年で23年目を迎える、心豊かで情の深い人々が暮らす緑豊かな農業中心の町です。町並みからは遠くにきれいな筑波山の山峰を見ることが出来ます。発足当時は、子ども達も大勢いて夏祭り等盛大に行われていました。犬達もリードにつながれ小屋に静かにしている事も無く、自由に町並みを闊歩していました。

最近では、少子化や後継者不足等により町の行事も年々少なくなってきました。そんな中、子ども達の活動や春の花見会、秋の敬老会・市民体育祭や、お正月の新年会は良き伝統として、毎年町をあげて皆さん楽しんでいきます。

また、そば好きの人たちが集まり、そば打ち同好会も年々盛り上がりが出てきており、今年6月には約50名近くの

人達で、そばを打つ人茹でる人、食べる人達で大いに賑わいました。

婦人部の皆さん方もコスモス会で月に1回公民館に集まり、美味しいものを持ち寄り食べたり飲んだりしながら楽しいひとときを花を咲かせています。

最近では防犯にも力を入れてきており自主防犯隊も組織され、毎週金曜日には町を巡回し、皆さんの安全、安心を守っています。不審な者や車など発見したときは、土浦警察署と連携し精力的に活動しています。さらに青色パトロールも実施する程にもなり、年を重ねる毎に盛り上がりを見せています。もちろん、小学生の送迎や、お一人暮らしの高齢の方への訪問など活動の場も広がりを見せています。

巡回中には、キジの家族を見かける事もしばしばで、このすばらしい自然豊かな人情あふれる町をずっと継承していきたいものです。

地区長 重松俊夫

【仲の杜】平成26年10月

仲の杜(なかのもり)自治会は中地区の新興住宅地を中心に結成されたばかりの町会です。170余世帯、630人程度の会員のうち、およそ四割が中学生以下の子ども達で、大変若々しく元気に溢れています。

昨年初めて参加した東小地区市民体育祭では見事一初出場・初優勝を果たし、若さと団結力をアピールしました。現在は公民館を建設準備中であ

り、様々な住民活動が一層充実することを願っております。

町会結成以来、毎年開催している夏祭りは今年で3回目になります。パーベキューやかき氷、子供向けの出店など、自治会役員、育成会はじめ住民皆様のご協力により、楽しい交流の場となっております。

また、地区内には3つの公園に加え、豊かな緑地があり、子ども達の遊び場や住民の憩いの場として生活に潤いを与えてくれています。地下水ポンプを併設する揚水風車(通称ヤチボウズ)は、地区のシンボルであると同時に、平常時には子ども達の遊び場として、また災害時には生活用水の確保に役立ちます。

これらの恵まれた環境を活かして、子育てがしやすく災害にも強い、安心して住みよいまちづくりを、今後も住民の皆様と共に一層進めて参りたいと考えております。

地区長 澤野浩



土浦市イメージキャラクター つちまる